

《ミャンマー》大同団結図る少数民族武装勢力 「ライザ会議」参加の18組織：プロフィール(上)

ミャンマーのテイン・セイン政権は、すべての少数民族武装組織の代表を首都ネピドーに招いて政府との間で「全国的停戦協定(NCA)」の「調印式典」を行い、「民族和解」の成就を国の内外に示す構想を明らかにしている。これに対し、少数民族側はNCA調印に向けた統一方針を決定するために、10月30日～11月2日にカチン族系の有力組織「カチン独立機構(KIO)」の本拠地があるカチン州ライザに各民族を網羅する18の組織が結集して「ライザ会議(少数民族サミット)」を開いた。今号と次号では、この18組織のプロフィールを通じて、政府との今後の和平交渉に大同団結した立場で望もうと模索する少数民族武装勢力の全貌を紹介する。

「全国的停戦協定(NCA)」に向けた協議

【10月30日～11月2日：ライザ会議】カチン州の中国との国境に近いライザ(KIO本拠地)に18の少数民族武装組織の代表が集まり、政府から要請があったNCA調印に対する少数民族勢力全体としての統一方針を協議し、同調印を前向きに検討するに当たっての11項目の(政府に対する)提案事項を決定した。

【11月4日～5日】カチン州の州都ミッチーナで、政府側の「中央和平構築実務委員会」(首席代表はアウン・ミン大統領府相兼同副委員長)と「ライザ会議」の決定を伝達する少数民族側の「全国停戦調停チーム」が会合を開き、双方がNCA調印を含む、今後の和平交渉に向けた行程を提示した。

少数民族側は、「停戦合意前に『真の連邦制』確立に向けた枠組みの協議を含む政治対話を開始する」など11項目の提案事項を示した。これに対し、政府側は「政治対話は停戦合意後に進める」方針を示したため、会合は基本的に「物別れ」となった。

【12月中】ミッチーナ会合でNCA調印に関する協議が不調に終わったため、政府と少数民族勢力の双方は、再度の調整会合を今年(12月)中に南東部・カレン州の州都パアンで開催することで合意した(従って、今年中のNCA調印は困難な状況となっている)。



「ライザ会議」に参加した少数民族武装勢力18組織の代表者たち
(写真=UNFC広報部提供)

〔組織データ・ファイル〕

【凡例】

*少数民族各組織は、一時的な解散や新指導部による再結成などの様々な変遷をたどっており、【創設】は基本的に母体組織の結成時を示す。

*【兵力】は政府系・反政府系の機関・NGOによるデータや海外のミャンマー問題研究機関の報告などを参考に筆者が推計した。

*【活動地域】は、当該組織の完全支配地域だけでなく、国軍部隊との「競合地域」や政治的な影響力が及ぶ地域を含む。

*【指導部】中で氏名の後に☆印が付いた幹部は、「ライザ会合」で合意文書に組織を代表して署名したことを示す。

*【旧停戦】は旧・軍事政権との停戦を示し、(無し)は軍事政権時代を通じて「非和平(停戦組織)」だったことを意味する。【新停戦】はテイン・セイン現政権との停戦を示し、(未調印)は(本データ作成時点で)未だ停戦協定に調印していないことを意味する。「第2段階」は停戦合意後に連邦レベルでの政治的交渉に入ったことを示す。

■カチン独立機構 Kachin Independence Organization(KIO)

「ライザ会議」を主催。兵力1万人を擁する有力組織。現政権との停戦調印に未だ(本稿執筆時点)応じていない。東西冷戦時代はKNUとともに少数民族勢力の二大「盟主」的存在だった。少数民族諸組織の連合体「統一民族連邦評議会(UNFC)」の議長を出している。



▼データ：【民族】カチン族【創設】1961年2月5日【軍事組織】カチン独立軍(KIA)【兵力】5個旅団：7,000～10,000人(KIO系の民兵と村落自衛団員は除く)【活動地域】カチン州全域とシャン州北部
【指導部】議長：ラニョー・ゾーン・ラー(Lanyaw Zawng Hra、またはU Zau Hara)☆/副議長：ンバン・ラ(N'Ban La)/書記長：ラ・ジャ(Dr. La Ja)/KIA司令官：ガム・ショーン大将(Gen. Gam Shawng)

【本部】カチン州ライザ(「カチン州第2特別地区」)【旧停戦】1994年2月24日【新停戦】(未調印)

■カレン民族同盟 Karen National Union(KNU)

ビルマ(現ミャンマー)の独立期から65年間におよびカレン族の民族自決権を求めて武装闘争を展開してきた「世界で最も長く戦っている反政府武装組織」。テイン・セイン政権成立後の2012年1月に政府との停戦に合意。冷戦時代には1万人以上の兵力を擁したが、DKBAの造反などもあり、現在は最盛期の半分以下の兵力に減少。ただ、政治的には少数民族勢力ではKIOとともに強い影響力を持っている。

▼データ：【民族】カレン族【創設】1947年【軍事組織】カレン民族解放軍(KNLA)【兵力】最大5,000人【活動地域】カレン州全域とタニンダリー地域北部【指導部】議長：ソー・ムトゥ・セーポー(Saw Mutu Sae Poe)☆/副議長：ノー・ジッポラ・セイン(Naw Zipporah Sein)/書記長：ソー・クエ・トゥー・ウィン(KNLA司令官：ソー・ジョニー准将(Bri. Gen. Saw Johnny)【本部】カレン州(移動本部)【旧停戦】(無し)【新停戦】2012年1月12日→第2段階

■民主カレン共済軍 Democratic Karen Benevolent Army (DKBA)

1994年にキリスト教徒が多数派の指導部に造反した仏教徒幹部・メンバーがKNUから離脱し結成した旧「民主カレン仏教徒軍(DKBA)」の第5旅団。DKBAが軍政から国境警備隊(BGF)への再編を強制された時に反発し、DKBA主流派(現BGF)から分派。現在はKNUと緩い同盟関係にある。組織トップのソー・ラー・プエ参謀長はキリスト教徒とされる。

*英字略号が同一である「民主カレン仏教徒軍(DKBA)」の主流派は「カレン州BGF」に再編されており、現在、同「仏教徒軍」を名乗る組織は存在しない。



ソー・ラー・プエ
参謀長

▼データ：【民族】カレン族【旧名】民主カレン仏教徒軍(DKBA)第5旅団【創設】2010年11月8日【軍事組織】「カロトウーボー(Kaloh Htoo Baw)大隊」【兵力】1,000~1,500人【活動地域】カレン州コーカレイ、チャインセッチー各都【指導部】参謀長：ソー・ラー・プエ(Saw Lah Pwe)、別名ナー・カー・ムウェ(Na Ka Mwe)/副参謀長：ソー・モーシェ大將(General Saw Moshe)☆【本部】カレン州ミャワディ地区【旧停戦】(無し)【新停戦】2011年11月3日→第2段階

【本部】カレン州ミャワディ地区【旧停戦】(無し)【新停戦】2011年11月3日→第2段階

■KNU/KNLA和平評議会 KNU/KNLA Peace Council (KPC)

ソー・テイ・マウン元KNLA第7旅団長が2007年にKNUから離脱して結成した小規模な組織。結成直後に軍事政権と停戦に合意した。その後、軍政が(KPC)のBGF化を強制したことに反発し反政府姿勢に回帰した。

▼データ：【民族】カレン族【創設】2007年1月31日【軍事組織】(自称)「カレン民族解放軍(KNLA)」【兵力】最大200人【活動地域】カレン州コーカレイ、フラインプエ各地区【指導部】議長：ソー・テイ・マウン(Saw Htay Maung)、別名ソー・テイン・マウン(Saw Htein Maung)/外務・広報局書記：ソー・チャー・ダー大佐(Colonel Saw Kyaw Dah)☆【本部】カレン州コーカレイ地区トコロコ(Tokawko)【旧停戦】2007年2月11日【新停戦】2012年2月7日

■カレンニ民族進歩党 Karenni National Progress Party (KNPP)

1957年に創設された母体組織(旧・KNPP)の「主流派」を任じる。民族的に親和性があるKNUとは共闘関係にある。

▼データ：【民族】カヤー(カレンニ)族【創設】1957年【軍事組織】カレンニ軍(KA)【兵力】600~800人【活動地域】カヤー州の都ロイコーとシャードー、パルソー、ディーモーソー各地区【指導部】議長：アーベル・トゥイード(Khun Abel Tweed)☆/第1書記：アウン・サン・ミン(Aung San Myint)/KA司令官：ビー・トゥー大將(Gen. Bee Htoo)【本部】カヤー州シャードー地区【旧停戦】(1995年3月に旧・KNPPの一部幹部が停戦合意)【新停戦】2012年3月7日→第2段階

■シャン州復興評議会 Shan State Restoration Council (SSRC)

1964年に創設された「シャン州軍(SSA)」の「流れ」を汲む。直接の前身組織である「シャン統一革命軍(SURA)」の「主流派」(現SSPP)は、1989年に軍事政権との停戦に応じたが、それに反発した離脱派が結成した。SSPPとの関係は良好ではなく、SSPPがシャン州代表として加盟する少数民族諸組織の連合体UNFCには参加していない。

▼データ：【民族】シャン族【創設】1964年(母体組織)/1996年(現組織)【軍事組織】「シャン州軍(SSA)」、通称は「SSA-S(南部軍)」【兵力】5,000~6,000人【活動地域】シャン州東部のモントン、モンサット各地区、同州南部のモンパン、モンナイ、ライカ

各地区など【指導部】議長・SSA司令官：ヨート・サーク中將(Lt. Gen. Yawd Serk)/第2書記：サイ・フラー大佐(Colonel Sai Hla)☆【本部】シャン州南部ロイタイレン(Loi Tai Leng)【旧停戦】(無し)【新停戦】2011年12月2日→第2段階

■シャン州進歩党 Shan State Progress Party (SSPP)

1964年に創設された「シャン州軍(SSA)」の「流れ」を汲む「シャン統一革命軍(SURA)」の「主流派」(「反主流派」が上述のSSRC)。武器弾薬の支援を受けていた「ビルマ共産党(BCP)」が東西冷戦時代の終焉で崩壊したことに伴い1989年に軍事政権との停戦に応じた。2010年に軍政から「国境警備隊(BGF)」化を強制されたことに反発し、パン・ファ現議長らのグループが反政府姿勢に回帰した。SSRCとはこれまでに唯一の「SSA」として再統合する構想も出たが、新組織の主導権争いなどで現在まで関係はこじれたままである。

▼データ：【民族】シャン族【創設】1964年(母体組織)/1989年(現組織)【軍事組織】「シャン州軍(SSA)」、通称は「SSA-N(北部軍)」/【兵力】4,000人【活動地域】シャン州北部ラシオ、ケシ各地区など【指導部】議長：パン・ファ中將(Lt. Gen. Pang Fa)/書記長：サオ・クン・セン(Sao Hkun Seng)☆【本部】シャン州北部ケシ地区ワンハイ(Wan Hai)【旧停戦】1989年9月2日【新停戦】2012年1月28日→第2段階

■パラウン州解放戦線 Palaung State Liberation Front (PSLF)

KIOと同様、現政権と停戦合意に達していない。隣接地域で活動するKIOとは同盟関係にある。

【民族】パラウン族【創設】1992年1月【軍事組織】タアン民族解放軍(TNLA: Ta'ang National Liberation Army)【兵力】800人【活動地域】シャン州北部ナムトゥ地区【指導部】議長：アイク・ボン大佐(Col Aik Bong)☆/書記長：ター・ボン・チャー(Thar Bong Kyaw)/TNLA司令官：ター・ホイ・プラーン(Thar Hoi Plarn)【本部】シャン州北部ナムトゥ【旧停戦】(無し)【新停戦】(未調印)

■新モン州党 New Mon State Party (NMSP)

ネ・ウィン政権時代はKNUと固い同盟関係にあったが、軍政時代に政府との停戦に応じた。現政権との停戦後も支配地周辺の国軍部隊とは小競り合いが続いている。

【民族】モン族【創設】1958年7月【軍事組織】モン民族解放軍(MSLA)【兵力】800~1,000人【活動地域】モン州タートン、モラミヤイン、ダウエイ、バゴー地域バゴー【指導部】議長：ナイ・トー・モン(Nai Htay Mon)、書記長：ナイ・ホン・サー(Nai Hong Sar/Nai Han Thar)☆/MSLA司令官：ライー・ガ・カウ准將(Brig. Gen. Layi Ga Kaung)【本部】モン州イェ・チャウン・ピャ(Ye Chaung Phya)【旧停戦】1995年6月29日【新停戦】2012年2月1日

■チン民族戦線 Chin National Front (CNF)

軍政時代はKNUを筆頭とする「非和平(非停戦)組織」に名を連ねた。武装部隊は長らく、主にミャンマー・タイ国境のKNU支配地を拠点に活動してきた。

【民族】チン族【創設】1988年3月20日【軍事組織】チン民族軍(CNA)【兵力】200人【活動地域】チン州タンラン、テ・ディム、マトゥピ各地区【指導部】書記長：プー・ジン・クン(Pu Zing Cung)☆/副書記長：スイ・カー(Dr. Sui Khar)【本部】チン州タンラン地区(「キャンプ・ビクトリア」)【旧停戦】(無し)【新停戦】2012年1月6日

(注)残りの8組織のプロフィールは次号(12月15日号)に掲載します。

(アジア・リンケージ 勝田 悟)